

学校連携事業 2021
～コロナ禍 2 年目を振り返る～

大城 久表

School collaboration project 2021

Hisato OSHIRO

沖縄県立博物館・美術館，博物館紀要 第15号別刷

2022年3月31日

Reprinted from the
Bulletin of the Museum, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, No.15
March, 2022

学校連携事業2021 ～コロナ禍2年目を振り返る～

大城 久表¹⁾

School collaboration project 2021

Hisato OSHIRO¹⁾

はじめに

沖縄県立博物館・美術館では、県民の自己啓発や学習を発表する場の提供、また博物館資料を活用した学習支援活動を目的として、ボランティア員の導入による学習プログラムの推進や、博物館学芸員の学校招聘による出前授業等を行って。また、当館教育普及はその活動において指定管理者と協働して教育普及活動を展開している。これらの活動は多様化する来館者のニーズに対し、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となることを目指している。

さて平成29年度から令和2年度まで取り組んだ「学校連携モデル研究事業」は本県の児童生徒に沖縄の歴史、文化に対するアイデンティティの形成と、郷土への誇りの醸成を図ることを目的とし、博物館資料を活用しての学習プログラムの充実・改善を図った。ボランティアのサポートを受けて行う民具体験学習。また、学校側が校外の教室として当館の利用を図るために行っている教職員向け講座。教師の民具体験授業スキル向上に取り組み学校側が当館民具を積極的に借出し授業活用する機会がふえた。令和3年度以降も(2021～2014)「学校連携事業2021」として、更なる学習支援活動を目指し、学校と連携して各校種・年齢層においてニーズに対応した、きめ細かな学習プログラムの実施を行っていききたい。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大が続く現状において、5月下旬から9月末まで沖縄県に緊急事態宣言が発令されたことを受け当館も臨時休館と

なった。そのため様々なイベントが無観客での開催(オンラインでの配信)や中止または延期となった。博物館班ボランティア活動も休止となり、各学校においても校内外の諸行事が延期、または中止となった。当館教育普及事業を行うにあたって「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づく感染症対策を徹底して行い、宣言下においても一定の活動を継続できるように取り組んだ。本稿では昨年度に引継ぎ、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえて行った本事業の取り組みを紹介したい。

1. 事業初年度における取り組みについて

事業初年度(令和3年度)は、平成29年度から令和2年度にかけて実施した「学校連携モデル研究事業」の成果と課題を踏まえ、

- (1) 民具体験学習プログラム実施(小学3年生)
- (2) 出前授業に関するプログラム実施
- (3) 来館学習プログラムの実施
- (4) 離島地域における、出前授業に関する学習プログラム実施
- (5) リーフレット作成(体験キット)

以上の取り組みを行い、令和3年度から令和6年度(本事業最終年度)までの事業設計を行うこととした。しかし沖縄県に緊急事態宣言が発令され当館も4か月以上にわたり臨時休館となった。感染予防のために努力する一方で、博物館の役割を果たすべく昨年度に引き続き博物館班の職員及び学芸員、指定管理者と連絡・調整をとりながら協力し、創意工

¹⁾ 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1
Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa 900-0006, Japan

夫を凝らした教育普及活動に取り組んだ。詳しい取り組みについては、以下の通りである。

2. 博物館に係る受入要項の配布について

博物館における学校団体受入を計画的に準備し運営を行うため、博物館教育普及事業の周知徹底のため県内各校へ受入要項を配布している。

令和3年 沖縄県立博物館・美術館に係る受入要項の配布

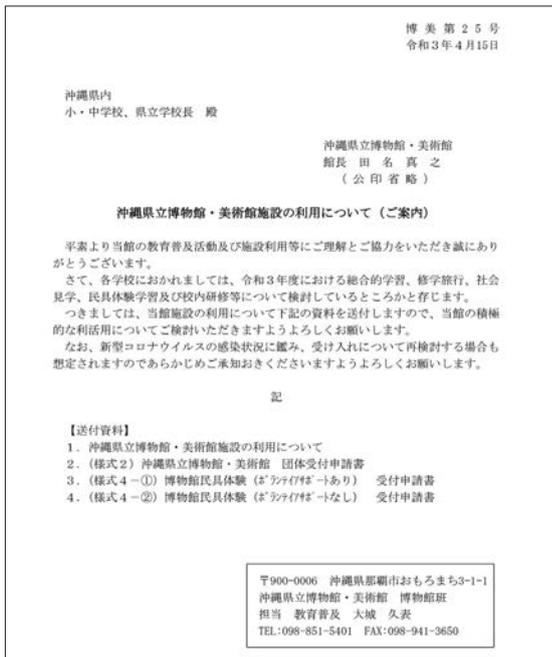


図 1. - ①

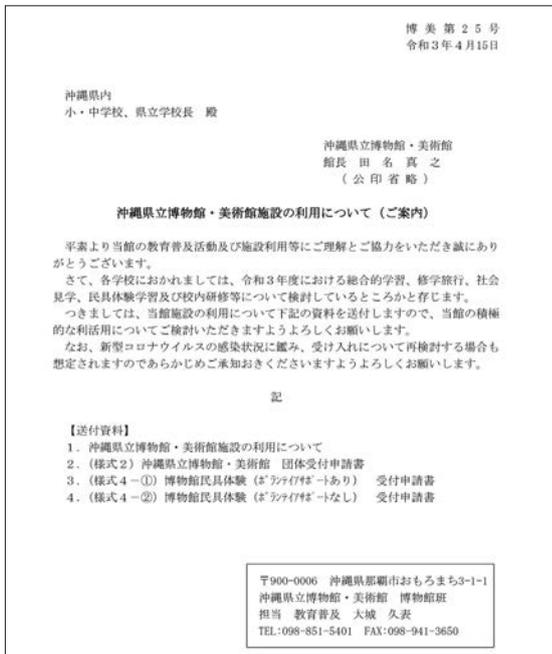


図 1. - ②

3. 民具体験学習プログラム実施について

【民具体験学習プログラム・1】

ボランティアサポートあり

当館教育普及事業においては、小学3学年社会科・および総合的な学習の時間等で、博物館ボランティアによるサポートを受けて「民具体験学習(昔の生活とくらし)」を行い、民具の着衣体験や展示室解説などが行われている。

しかし、新型コロナウイルス感染症防止対策として、博物館班ボランティア活動、ふれあい系の体験活動は休止となり、民具体験においても不特定多数の児童が民具に触れることができなくなった。よって昨年度に引き続き、「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を遵守し、児童・教職員、また運営する職員の安全確保を最優先に博物館班の職員及び学芸員、指定管理者と連絡・調整をとりながら、感染予防対策をしっかり行い職員による民具解説・実演を実施した。

【民具体験学習プログラム1の様子】

* 事前打合
民具体験学習
事前打合わせの様子



* 高嶺小
職員による民具体験
学習・洗濯の道具解
説・実演の様子

* 真壁小
民具体験学習
着衣解説・実演の様子





***若狭小**
職員による民具体験学習・運搬解説・実演の様子

***座安小**
職員による民具体験学習・洗濯の道具解説・実演の様子



新型コロナウイルス感染拡大を防止するため最大の対策を講じて「民具体験学習プログラム」を実施した。大勢の人数が滞留しないように、事前にグループ分けを学校側で行ってもらい密が発生しないように注意した。また、生徒が民具に直接手で触れることがないように鑑賞方法の工夫を行い、終了後は職員等で徹底して消毒を行った。多くの制約がなされる状況下において学校行事も相次いで中止される中、博物館に来館することができた児童にかけがえのない貴重な思い出となる有意義な教育活動を実施することができた。

令和3年度 学校団体民具体験学習受入表 12校

活動日	参加校	参加人数
10月26日(火)	高嶺小	35名
11月11日(木)	真壁小	63名
12月1日(水)	若狭小	45名
12月3日(金)	座安小	81名
12月16日(木)	天妃小	86名
1月13日(木)	さつき小	116名
1月18日(火)	松島小	119名
1月21日(金)	安謝小	99名
1月26日(水)	小祿南小	120名
2月1日(火)	米須小	24名
2月4日(金)	開南小	65名
2月16日(水)	坂田小	142名
総計		995名

*2022年1月現在

【民具体験学習プログラム・2】

教師主導による授業活用

展示資料解説マニュアルを活用して、博物館常設展示室における展示資料、民具体験学習における授業の指導作成・進行についての指導等を事前に行い、教職員の授業における活用を支援する取り組みを行っている。

しかし、新型コロナウイルス感染防止対策としてふれあい系の体験活動は休止となり、民具体験等不特定多数の児童が民具に触れることができなくなった。そのため学習活動の一部変更を行い、教師による民具解説・実演を実施した。

***事前打合**
自主民具体験学習、事前打合わせの様子



***喜屋武小**
職員による自主民具体験学習・運搬の道具解説・実演の様子

***天久小**
職員による自主民具体験学習・着衣解説・実演の様子



***古蔵小**
職員による自主民具体験学習・常設展示室解説の様子

***那覇小**

職員による自主民具
体験学習・解説・実
演の様子



令和3年度 学校団体自主民具体験学習受入表6校

活動日	参加校	参加人数
11月 4日(木)	喜屋武小	18名
11月 9日(火)	天久小	54名
11月10日(水)	天久小	54名
11月17日(水)	古蔵小	128名
12月 7日(火)	那覇小	74名
12月 8日(水)	銘苅小	102名
1月20日(木)	とよみ小	121名
総計		551名

*2022年1月現在

新型コロナウイルス感染防止策として、教職員との事前打ち合わせを十分に行った。館内での生徒の導線をしっかり確認し、密が発生しないための措置を講じた。また民具体験学習当日は、サーモグラフィ等による検温、マスク着用の徹底はもちろん、観覧方法の工夫を行い、教員への感染とともに児童への感染を徹底して予防することを旨として取り組んだ。教職員は児童に民具体験学習を楽しんでもらえるように、自己研鑽に励み高い意識をもって挑んでいた。児童も民具に興味・関心をもち、主体的に取り組んでいた。博物館と学校が連携・協働して学びの場を提供することができた。

4.【教職員向け講座】

学校側が校外の教室として当館の利用を図るため、教職員向け講座を行い、教師の民具体験授業スキル向上に取り組んでいる。沖縄県緊急事態宣言発令の為、当館が臨時休館となり参加人数の制限を行うなど感染防止対策を徹底して実施した。

(1) 日時 令和3年8月13日(金)

(2) 場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室・

実習室(参加5名)

(3) 対象 県内小学校教諭・教職者

【講座の様子】



***教職員講座**

展示室において人類史
を解説している様子

***教職員講座**

歴史・平和学習を行
っている様子



***教職員講座**

職員による民具体験
学習・運搬道具・解
説・実演の様子

教職員向け講座の実施に際して講ずるべき対策を徹底して行った。新型コロナウイルスの感染防止に取り組むとともに、こうした状況においてこそ博物館の役割を継続的に果たせるように努力した。講座の開催にあたってはリスク評価をしっかりと行い、教職員と博物館職員の安全を最優先に講座実施に関する内容等も考慮し創意工夫を図って取り組んだ。受講した教職員は後日、実際に児童生徒の学習に関する興味・関心を高めることを目的として民具借用・来館学習等に取り組み当館利用を図っていた。

5. 出前授業に関するプログラム実施について

本取組においては、学校での授業において地元の歴史や文化材の理解を深めるために学芸員を講師として派遣し、博物館資料を活用するなどして児童・生徒の学習を支援している。

(1) 沖縄県立南部農林高等学校

①学習内容：学芸員による出前授業

「沖縄の民話(民俗学)」

②日時：令和3年7月26日(月)

(対象学年：2年 生活福祉専攻 11名)



* 南部農林高校
地域に伝わる伝統文化について学習している様子

(4) 沖縄県立美咲特別支援学校

①学習内容：学芸員による出前授業

「職業(民俗学)」

②日時：令和3年11月11日(木)

(対象学年：高等部 環境美化班 16名)



* 美咲特別支援学校
地域に伝わる伝統文化についてクバの葉を用いて授業している様子

(2) 沖縄県立沖縄盲学校

①学習内容：学芸員による出前授業

(地学・教育普及)

「沖縄島の石ころと大地の秘密を探せ！」

②日時：令和3年9月17日(金)

(対象学年：中等部 高等部生徒)

* 沖縄盲学校
沖縄県の地質と地形について学習している様子



* 沖縄盲学校
沖縄県の地質と地形について実際に岩石に触れている様子

(5) 沖縄県立向陽学校

①学習内容：学芸員による出前授業(人類学)

「地理歴史・公民科巡検事前学習会」

②日時：令和3年11月16日(火)(人類学)

(対象学年：1学年全員 240名)



* 向陽高校
サキタリ洞遺跡(ガンガラーの谷)人類学について学習している様子

(3) 沖縄市立美東小学校

①学習内容：学芸員による出前授業(歴史学)

平和学習「戦時中の沖縄市の様子」

②日時：令和3年10月5日(火)

(対象学年：6学年児童)



* 美東小
戦時中の沖縄市の様子について学習している様子

5月下旬から9月末まで沖縄県に緊急事態宣言が発令されたことを受け、学校側と当館学芸員は連絡、日程調整を重ね、出前授業の実施において新型コロナウイルス感染拡大を防止するために講ずるべき対策を徹底して行った。

デジタルミュージアムを活用した民話を題材とした紙芝居作りの授業を南部農林高等学校デザイン科で初めて実践し、生徒も主体的に課題研究に取り組んでいた。沖縄盲学校では、沖縄島の島々の岩石標本と立体地図、地質図パズルに実際に触れて、島々の地質と地形の関係について学んだ。美東小学校で行った平和学習では戦時中の沖縄市の様子について学び地域の歴史について理解を深めた。美咲特別支援学校では、クバの葉を用いたクバオジ作りを行った。学校側の要望を基に指導案を作成し生徒の実態に応じた授業を実施、沖縄の生活と暮らしの工夫について学んだ。また昨年引き続き向陽高等学校では、1学年全生徒を対象に地理歴史・公民科、野外

巡検事前学習の取り組みとして当館学芸員より港川フィッシャー遺跡について学び地元の遺跡について理解を深めた。学芸員は創意工夫ある授業を行い、児童・生徒の主体的な学習の育成に努め、学習を支援した。

6. 来館学習プログラムの実施について

本取組においては教育課程の一環として博物館を学校側が利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行った。生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設、職員、博物館学芸員の支援体制を考慮して学習プログラムを作成し実施した。

(1) 沖縄県立沖縄水産高等学校

①学習内容：学芸員による展示解説授業

「社会体験研修（歴史・地学・民俗）」

目的：「サバニ」「海の環境問題」に関して見聞を深め各自設定したテーマを追求し研究活動を実践する。

②日時：令和3年5月20日（木）

（対象学年：海洋技術科3学年 12名）



* 沖縄水産高校
サバニ・常設展示室で解説を受けている様子（歴史）

* 沖縄水産高校
沖縄の民族部門の展示解説を受けている様子



(2) 与那国町立比川小学校「学校団体見学」

①学習内容：学芸員による展示解説授業

（自然・歴史・民俗）

目的：博物館・美術館に展示された作品を観覧し、見識を深める。

②日時：令和3年10月8日（金）

（対象学年：5年生1名 6年生2名）



* 比川小
自然史について学習している様子

* 比川小
歴史について学習している様子（歴史）



(3) 学校法人カトリック学園海星小学校「学校団体見学」に係る「沖縄本島平和学習（修学旅行）」

①学習内容：学芸員による展示解説授業

（人類学）「海とジュゴンと貝塚人」

目的：児童を対象に、博物館・美術館に展示された作品を観覧し、見識を深め、今後の学校生活に寄与することを目的とする。

②日時：令和3年10月29日（金）

（対象学年：6年生 15名）



* 海星小
企画展「海とジュゴンと貝塚人」について学習している様子（人類）

(4) 令和3年度 ユネスコ世界自然遺産登録記念 国頭村立へき地3校合同「学校団体見学」

（奥、安田、安波小学校）

①内容：展示解説・バックヤード見学

（地学・生物）

目的：やんばる地域が世界自然遺産登録に決定されたことを受け、児童の見識を深め、沖縄自然遺産の文化に触れ、保存の仕方を学び、今後

の学校生活に寄与することを目的とする。

②日時：令和3年11月2日(火)
(6年生5名 引率9名 計14名)



* 3校合同
常設展示室を見学している様子(生物)

* 3校合同
バックヤードを見学している様子(地学)



* 3校合同
釣鐘返還式典に参加している様子

(5) 令和3年度 沖縄盲・沖縄ろう学校
「学校団体見学」に係る「社会科授業」
(沖縄県立沖縄盲学校・ろう学校)

①学習内容：学芸員による展示解説授業
バックヤード見学(地学・生物)

目的：沖縄盲学校児童と沖縄ろう学校の4年生を対象に、沖縄県立博物館・美術館に展示された収蔵品や沖縄の伝統工芸品等の鑑賞を通して、児童の知識や理解を深める。

②日時：令和3年12月7日(火)
(4年生2名 引率2名 計4名)



* 沖縄盲学校
収蔵品等(紅型・緋)の学習をしている様子(美工)

* 沖縄盲学校
体験キット(らでん)を学習している様子(美工)



* 沖縄盲学校
エントランスパネル展示を体験学習している様子(地学)

令和3年度 来館学習プログラム受入表7校

活動日	参加校	参加人数
5月20日(木)	沖縄水産高校	12名
10月8日(金)	比川小	3名
10月29日(金)	海星小	15名
11月2日(火)	奥,安田,安波小	5名
12月7日(火)	沖縄盲・ろう	2名
1月8日(土)	日比谷高校	12名
2月4日(金)	本部高校	43名
総計		92名

* 2022年1月現在

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学校現場においても諸行事の中止や変更が相次ぐ状況下において、当館博物館に来館学習の相談、依頼が増えた。館として支援することのできる学習内容の調整を学校側と行い、学芸員を講師とした学習プログラムを作成した。当館学芸員は博物館資料を活用するなどして生徒の学習を支援した。沖縄水産高校は社会体験研修の一環としてサバニや海の環境問題について展示資料を活用しながら地学担当学芸員より解説を受けた。国頭村立へき地3校合同学校団体見学では、やんばる地域がユネスコ世界自然遺産に登録されたことを受け、当館学芸員が展示解説とバックヤード見学を実施、沖縄の自然遺産の文化を学び見識を深めた。沖縄盲・ろう学校においては社会科授業の一環として来館学習の希望があり学習内容の

調整を学芸員と行った。沖縄の伝統工芸品等、当館資料を活用し、様々な素材に触れるなどして琉球の美術工芸品について理解を深めた。各学校の多様な要望に対応しながら新たな学習形態を模索し実践した。

7. リーフレット作成（体験キット）について

体験キットは、沖縄の自然、考古、歴史、美術、工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものである。教育普及資料である体験キットにおいて、貸出可能な体験キットのリーフレットを学校教職員に理解しやすいように工夫を行い作成した。



リーフレット表



リーフレット裏

8. 令和4年度からの事業設計について

新型コロナウイルス感染拡大が続く現状下において学校連携事業に取り組む中、学校側から博物館の学校支援に関する様々な形での相談や依頼が増え

た。まず、教師主体で実施する自主民具体験学習と当館学芸員が博物館資料を活用して行う来館学習の依頼が前年度より増加した。学校行事の中止や変更が影響している様子で、各学校の状況に柔軟に対応した。児童、生徒、教職員、また運営する職員の安全確保を最優先に感染予防対策をしっかりと行い、館として支援することのできる学習内容の調整を行いながら、学習プログラムを実施した。今後も、コロナ禍における支援体制を考慮して民具解説等、提供可能な情報を動画資料として作成していきたい。また、離島地域における出前授業の周知強化と、年間計画に位置づけるための手立てが必要であると考え。学芸員が提供できる具体的な実践事例を紹介し学校行事や各教科等に計画してもらえるように取り組んでいきたい。

おわりに

沖縄県の緊急事態宣言が9月末で解除された後、博物館の教育普及活動においても徐々に活動を再開している。今後の学校連携事業の展開としては、引き続き新型コロナウイルス感染防止に取り組むとともに、博物館施設、職員、ボランティアの支援体制等を考慮しながら、館として支援することのできる様々な教育普及活動の充実・改善を図りながら創意工夫ある学習の場を提供していきたい。

結びに、本事業を実施するにあたり、協力を頂いた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

下記の各館・各学校のご協力に感謝申し上げます。(順不同)

- ・民具体験学習プログラム参加各学校
- ・沖縄県立南部農林高等学校
- ・沖縄県立盲学校・ろう学校
- ・沖縄市立美東小学校
- ・沖縄県立美咲特別支援学校
- ・沖縄県立向陽高等学校
- ・沖縄水産高等学校
- ・与那国村立比川小学校
- ・国頭村立奥・安田・安波小学校

